



▲ 南砺ふくみつ雪あかり祭り(巨大紙風船上げ)／2月行事 (撮影：広報委員 工藤 悟)

### 会員各社名

|             |             |           |           |             |
|-------------|-------------|-----------|-----------|-------------|
| アイサワ工業(株)   | オリエンタル白石(株) | 大成建設(株)   | 東洋建設(株)   | (株)北都組      |
| 青木あすなろ建設(株) | (株)加賀田組     | 大日本土木(株)  | 戸田建設(株)   | (株)本間組      |
| あおみ建設(株)    | 鹿島建設(株)     | 大豊建設(株)   | 飛鳥建設(株)   | 前田建設工業(株)   |
| (株)安藤・間     | (株)熊谷組      | (株)竹中土木   | 西松建設(株)   | (株)丸山工務所    |
| 石黒建設(株)     | 五洋建設(株)     | 田辺建設(株)   | 日特建設(株)   | 三井住友建設(株)   |
| 岩田地崎建設(株)   | 佐藤工業(株)     | 鉄建建設(株)   | 日本国土開発(株) | みらい建設工業(株)  |
| (株)植木組      | 清水建設(株)     | 東亜建設工業(株) | (株)福田組    | 名工建設(株)     |
| (株)大林組      | (株)銭高組      | 東急建設(株)   | (株)フジタ    | りんかい日産建設(株) |
| (株)大本組      | 第一建設工業(株)   | 東鉄工業(株)   | (株)不動テトラ  | 若築建設(株)     |
| (株)奥村組      |             |           |           |             |



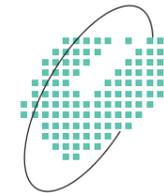
65 2019.2

発行 一般社団法人 日本建設業連合会 北陸支部 広報委員会  
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1(興和ビル7F) TEL(025)285-8886

印刷 新潟中央印刷  
〒950-1446 新潟市南区庄瀬6541-1 TEL(025)372-1334

2019.2.25 発行

確かなものを 地球と未来に 日建連



特集1—— 対談  
北陸の活力ある地域づくりについて

特集2—— 建設技術報告会

特集3—— 親子工事見学会・市民現場見学会

65 2019.2





65 CONTENTS

|    |  |
|----|--|
| 1  | VISION<br>「更なる生産性向上に向けた<br>建設技術者の挑戦」                                     |
| 2  | 随想<br>「県民の安全・安心な暮らし」の<br>実現に向けて  |
| 3  | 特集①<br>対談<br>北陸の活力ある<br>地域づくりについて  |
| 12 | 特集②<br>建設技術報告会   |
| 13 | 特集③<br>親子工事見学会・市民現場見学会   |
| 16 | 私のプライベートタイム<br>「休日のお楽しみ」   |
| 17 | 現場で輝くけんせつ小町<br>「地元の新幹線の<br>工事に携りたい」                                      |
| 18 | エッセイ<br>『ラグビーに魅せられて』   |
| 19 | ゆうたいむす<br>●「発酵の町「沼垂」でクラフトビール造り」<br>●「留学生活」<br>●「ポルトガルに恋して」<br>●「お客様への感謝」 |
| 21 | 事務局だより   |

表紙の写真：国道289号2号 橋梁上部  
(撮影：森安藤・間)

## 「更なる生産性向上に向けた 建設技術者の挑戦」

前田建設工業㈱ 北陸支店  
支店長  
東福 忠彦  
Tadahiko Toufuku



昨今、我が国では東京オリンピック・パラリンピックの開催やリニア中央新幹線の開業に向け、大規模なプロジェクトが進行しており、建設業は活気のある状況が続いています。

一方、地震、台風、洪水、豪雪など頻発する大規模な自然災害に対し、防災・減災に向けたインフラ機能の維持・向上が大きな課題となっています。インフラ整備には膨大な費用及びそれを長期的に行うための財源が必要となります。2011年、改正PFI法が施行され、コンセッション方式(インフラ施設において所有権を公共側に残しながら長期間事業運営する権利を民間事業者に売却する民営化手法)の導入が始まりました。政府はH25～H34の10年間で7兆円の事業規模を目標としており、当社でも、仙台空港や愛知県有料道路のコンセッション事業に取り組んでいますが、高度成長期に建設された社会インフラを中心に老朽化が進み、その更新や修繕の需要は年々増加しています。

また、我が国では、現在、世界に類を見ない速さで少子高齢化が進んでおり、産業全体にわたり労働力不足が大きな問題となっています。現在、外国人労働者の受入れ拡大の動きもありますが、建設業では技能労働者が20年後、3～4割減少すると予測されています。今後、国民の安心・安全な生活を確保していく上で、建設技術労働者の確保は重要な課題であり、担い手確保の観点から働き方

改革を喫緊に進めることが求められています。

これらの課題を解決していくには、飛躍的な生産性の向上が必要不可欠と言えます。その取組みは、建設業においてもICT導入やロボット技術を取入れた建設機械の自動化、省力化など様々な形で進められています。今後、更に機械化、自動化、省力化を進めていくには、既存の技術に捉われないこと、異分野の企業と積極的に交流し、技術開発していくことが重要となってきます。昨年、異業種のトヨタ自動車とソフトバンクが提携しました。当社においても、今年2月にオープンイノベーション推進型の新技術研究所を茨城県取手市に開設しました。国内外のベンチャー企業をはじめとする異分野の企業、大学に対しオープンラボとして開放し、様々な技術を協創していく施設です。将来的に更なる生産性の向上が期待される中、今まで建設現場において様々な関係者を上手くまとめモノづくりを行ってきた建設技術者には、今後、異分野との協創に挑戦し、新しいモノづくりの形を描いていくことが求められています。

私は、建設業は誇りの持てる職業だと思っています。建設業のイメージが3K(きつい・危険・汚い)から新3K(給料・休日・希望)に変わっていき、若い人からも魅力ある職業であると感じて頂けるように、業界あげて取り組んで行きましょう。



## 「県民の安全・安心な暮らし」の 実現に向けて

新潟県土木部長  
中田 一男  
Kazuo Nakada



「平成」最後の年を迎えてから、もうすぐ2か月が経過しようとしています。

昨年は、大阪北部地震、西日本を中心とした7月豪雨災害、台風21号による暴風雨・高潮災害、さらには北海道胆振東部地震など、「数十年に一度」「想定外」と言われるような災害が連続して全国各地で発生しました。被災からの早期の復旧・復興のため、本県土木部では、7月豪雨の被災地である広島県に応急仮設住宅建設業務支援のために職員を派遣したのをはじめ、9月から岡山県に、そして、地震で被害を受けた北海道には12月から、それぞれ災害復旧業務支援として本年3月末までの予定で職員を派遣しており、これまでの被災経験を踏まえ、引き続き、支援を行っていきたくと考えております。

こうした近年の頻発・激甚化する自然災害を目の当たりにして、改めて身の回りの自然環境の変化を感じるとともに、この変化に対応した防災・減災の取組が必要であることを実感しています。昨年、本県では、「防災・減災対策の新たなステージに向けた検討会議」を設置し、議論を始めました。ハード面では、事前対応の対策の強化などに向けた今後の本県の水害対策のあり方、ソフト面では、災害時における住民目線に立った情報伝達のあり方等をテーマに検討しているところです。これまでの被災を契機とした取組に加え、県民の安

全・安心な暮らしを確保し、経済損失を最小限にとどめるためにもう一段加速した防災・減災対策を進めていく必要があると思っています。壊滅的な被害が想定される地域には積極的な投資による治水・土砂災害対策を推進するとともに、平常時・災害時においても物流・人流が滞ることのない信頼性の高い道路網の早期整備が望まれます。

昨年、花角新知事による新潟県政がスタートし、「住んでよし、訪れてよしの新潟県」を実現するため、県民生活の安全と安心を確保するとともに、活力ある新潟県を目指しています。土木部としては、安全に安心して暮らせる県土づくり、また、活力と賑わいのあるまちづくりを目指し、防災・減災対策や老朽化対策、本県の拠点化の推進に資する道路整備などを効果的、着実に取り組んでいきたいと考えております。

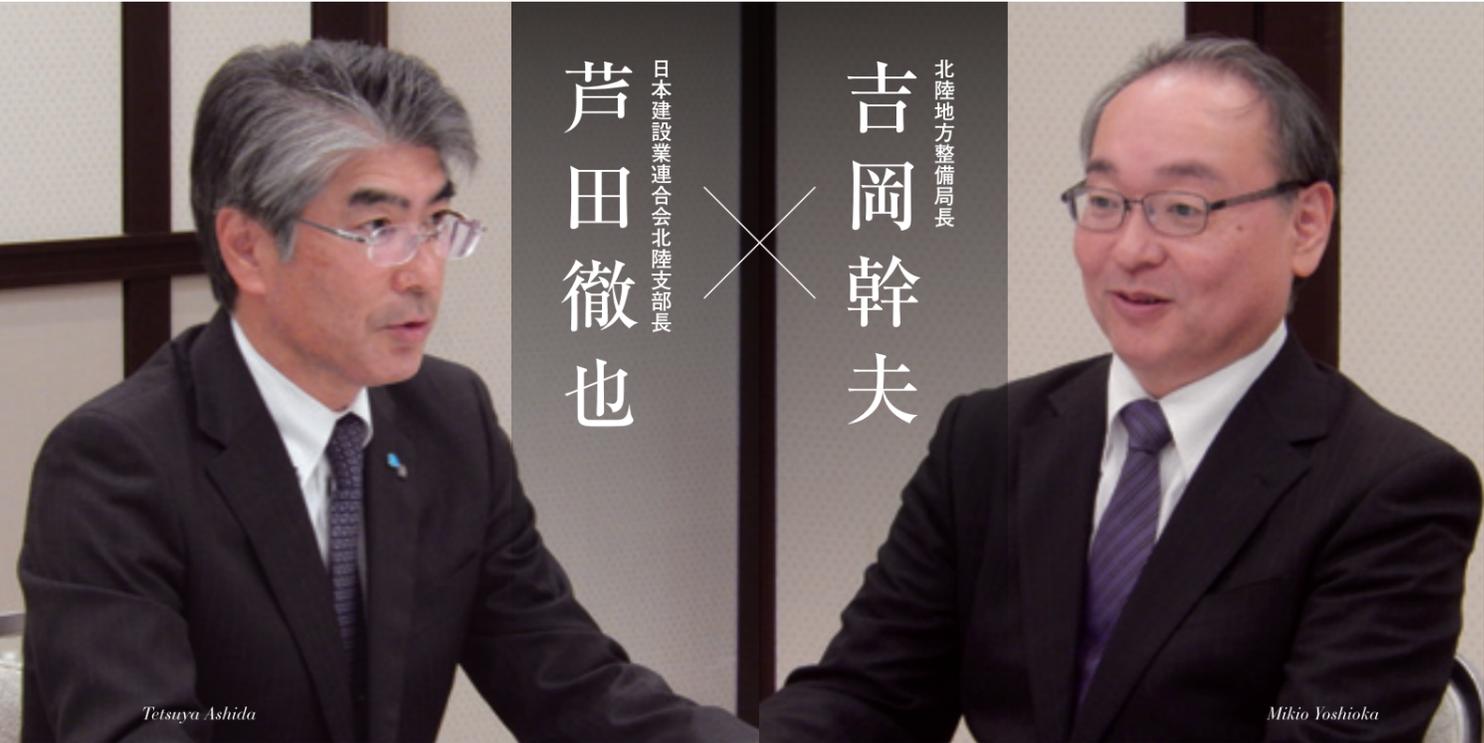
また、このような政策展開を進めるためには、建設産業の振興にも努めていかなければなりません。特に、担い手確保への対応は急務となっており、生産性の向上と働き方改革への対応を、両輪で着実に推進していく必要があります。生産性の向上では、工事現場におけるICT(情報通信技術)の普及促進に取り組んでおり、今年度は発注者、建

設業、測量業の技術者の方に、ICT工事における起工測量から完了検査までの一連の流れを体験してもらい、ICTへの理解を深めてもらうとともにICT活用に向けた課題を探りました。また、建設産業においては、週休2日(4週8休相当)の取得が進んでおらず、若年労働者をはじめとする将来を担う人材の確保・育成を進める上での課題となっています。そのため、就業者の処遇改善が必要であり、建設産業が若者にとっても魅力ある産業となるよう、完全週休2日を実施できていない建設現場における休日の確保のほか、女性技術者等の活躍に資する取組を行うなど、ワーク・ライフ・バランスや働き方改革の推進に取り組んでおります。

建設産業が、除雪や災害対応など地域の安全・安心の確保や社会資本の整備などを担いながら、県下各地域において、安定的・持続的に貢献し、地域の経済や雇用を支え活躍し続け、魅力ある産業となることを実現するため、引き続き取り組んでまいりたいと思っております。

# 対談

■開催日／平成30年12月19日(水) 13:30～ ■場所／白山会館2階 明浄



日本建設業連合会北陸支部長  
芦田徹也

北陸地方整備局長  
吉岡幹夫

Tetsuya Ashida

Mikio Yoshioka

今回は、本年7月に就任された北陸地方整備局長吉岡幹夫氏と、日建連北陸支部長芦田徹也氏による対談です。局長ご就任以来5ヶ月を経たのご感想や、北陸の地域づくり、担い手確保等について、いろいろとお話を伺いました。

対談要旨

- ①北陸地方整備局長ご就任5ヶ月を振り返って
- ②H31年度予算について
- ③北陸の活力ある地域づくりについて  
(i-Constructionの普及・推進)
- ④担い手確保(週休二日の実現に向けて)について
- ⑤建設界の広報活動について
- ⑥日本建設業連合会への要望について
- ⑦災害対応について
- ⑧終わりに

| 吉岡幹夫氏 略歴                        |
|---------------------------------|
| 昭和61年 4月 建設省 採用                 |
| 平成10年 3月 同 道路局 企画課長補佐           |
| ◇ 15年 4月 国土交通省 関東地方整備局 相武国道事務所長 |
| ◇ 20年 7月 同 道路局 国道・防災課 技術企画官     |
| ◇ 21年 4月 同 同 企画課 道路計画調整官        |
| ◇ 26年10月 同 同 高速道路課長             |
| ◇ 28年 6月 同 同 企画課長               |
| ◇ 30年 7月 北陸地方整備局長(現職)           |

## ①北陸地方整備局長ご就任5ヶ月を振り返って

(日本建設業連合会北陸支部長)

本年7月31日に北陸地方整備局長にご就任され、この間に地域の知事、自治体首長や建設業界の方々から様々なご

意見やご要望をお聞きしていることと申します。この間を振り返っていただいて、北陸地域の印象などをお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

北陸地方整備局は、初めての勤務になります。最初は、お酒の印象もありまし

たが、やはり豪雪の印象があります。私が昭和38年生まれなので、そういう意味では、“三八豪雪”との関係があったと、今にして思うところです。その雪についてですが、非常にさまざまな景観や農作物を含めて“恵み”を地域に与えているということを実感しています。北陸地域は、急流

河川が多く、また降雪量も多く、そして風も強い厳しい環境にありますが、そのような環境が、結果として“恵み”となり、皆さんが力強く生きているところだと思いました。

しかしながら、北陸地域を移動する場合、距離的には富山までは約300キロ、金沢までが約400キロですが、距離の割には非常に時間がかかり、エリアとして“広い”というのが実感です。北陸に来て、河川は北陸3県に加えて、長野県、福島県、岐阜県も入っていますし、港湾に至っては福井県が入っており、非常に広いエリアをカバーしていると感じています。

## ②平成31年度予算について

(日本建設業連合会北陸支部長)

8月末に公共事業関連費が6兆円規模で、国土交通省関連の来年度予算の概算要求が行われました。来年度の北陸地域における主要なプロジェクトである大河津分水路改修事業や日本海沿岸東北自動車道、利賀ダム関連事業等の今後の予定についてお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

大河津分水路改修事業については、平成27年に事業着手し、既に野積橋の架替工事等も工事発注しました。新第二



床固改築工事については、現在入札手続きを行っており、今後着手する予定で、これから重要な時期に差し掛かってくる状況です。北陸地方整備局として、地域の安全を守るためにも、あるいは実施事業の中で主要な事業として力を入れていかなければいけないと思っており、工事を進めていくうえでは、ICT等に力を入れて実施しなければいけない事業だと思っています。

利賀ダムについては、利賀ダム工事用道路として、また一般国道471号利賀バイパスとしての役割を担う「利賀大橋」が完成し、この10月に供用開始しました。今後は、さらに工事用道路を造り、ダム本体に着手するところまで来ました。

日本海沿岸東北自動車道については、全体で19本のトンネルの計画があり、そのうち新潟側は13本整備する計画で、現在1号トンネルに着手しています。今後、土砂の処理等についての課題がありますが、並行する区間には、今回チェーン規制の対象になっている蒲萄峠もあり、早く山形地域とつながることが重要なので、力を入れて進めていきたいと思っております。

(日本建設業連合会北陸支部長)

日沿道は、掘削土砂の搬出場所の問題があり、冬期に施工ができないなど、時間がかかるプロジェクトです。ね。

(北陸地方整備局長)

基本的には、片側から進めていくのですが、土砂のいろいろな課題があり、土捨場を探しながら進めていくことになります。皆さんから非常に期待されているので、できるだけ早く進めていきたいと思っています。

(日本建設業連合会北陸支部長)

山形側へ向かうアクセスが、現時点では限られていますので、日沿道が繋がれば非常に便利になりますね。

国道7号朝日温海道路1号トンネル



ロックボルト施工状況



インパルト施工状況

(北陸地方整備局長)

ネットワークという点で言うと、新潟まではとても早くできましたが、その先に伸びるのが少し遅れているというか、力の添え方が足りなかったのではないかと感じています。そういう意味では、早くつながるように進めていきたいと思いますが、地形的に厳しく、降雪もあり、冬期は土捨場の問題もあって、トンネル掘削ができないという状況も場合によってはありますので、そういうことも踏まえながら、しっかり進めていきたいと思っています。

## ③北陸の活力ある地域づくりについて

(日本建設業連合会北陸支部長)

北陸地方整備局では、平成28年3月に「北陸ブロックにおける社会資本整備重点計画」を策定されました。5つの基本戦略を設定し、北陸の活力ある地域づくりを進めていくものと承知しております。

また、国土交通省では、平成28年度を「生産性革命元年」と位置付けますとともに、北陸地方整備局におかれましては、i-Construction推進・普及の柱とし

て、現場での情報通信技術（ICT）を用いたドローンや建設機械による土工などの適用範囲の拡大等に取り組んでおられます。現場における生産性向上に向けた取り組み状況などについてお聞かせ下さい。

#### （北陸地方整備局長）

北陸地域を見ますと、北陸新幹線の効果もあり、金沢はとても元気があり、富山も少し元気がありますが、新潟は少し元気がないという感じがしなくもないですが、底力は持っているのではないかと思います。新潟も30年前に北陸自動車道、少し前に関越自動車道、上越新幹線ができて、そこからいろいろと頑張っていかなければいけないところで、動きが足りなかった部分があるのかと思います。

現状は、太平洋側がとても元気がありますが、2027年にリニアができる、東京と名古屋が約45分で結ばれます。その先の大阪までは約1時間で結ばれます。今も新幹線を使って2時間半で東京・大阪間の約500キロが結ばれるのに対して、新潟と金沢の間は、車で約4時間かかり、直通する鉄道もない状況です。このよ



うな状況をどうしていくのか。全体としてネットワークを整備していくことも重要です。整備をスピードアップしていくことも重要です。先ほどの日沿道の話ではないですが、地域を伸ばしていくということが、地域づくりとしては重要で、そういうことを加速化していく必要があると思います。

そのような状況において、いろいろな事業をどのように進めるかという点では、やはり生産性を上げなければいけないと思います。生産性は、先ほど言ったスピードアップの話もありますが、仕事そのものを効率的に進めていかなければいけないということで、その点については建設業も例外なく取り組んでいかなければいけないと思います。

また、人口減少の問題や外国人労働者の問題もあり、人口が減るとい点からも生産性を上げなければいけない状況が迫っています。

そういう意味では、機械や情報通信技術を使って効率を上げていくことが重要であり、工事現場においても、一生懸命に進めなければいけないので、北陸地方整備局でもICTを活用した工事を数多く出しています。受注者と発注者が一緒に検討を進め、多くの工事に普及・展開できるように取り組んでいるところです。

#### （日本建設業連合会北陸支部長）

現在、テレビで「下町ロケット」という、トラクターが全自動で動くなど、農業の未来を変えていくようなことが、ドラマの中で取り上げられていますが、建設業も徐々に、そのような技術が取り入れられていけばいいなと思っています。

#### （北陸地方整備局長）

担い手育成にも関係しますが、若い人に興味を持ってもらうには、若干ゲーム感覚かもしれませんが、現場と離れたところで機械を動かしながら何かものができるようになっていくという世界が見えれば、とても魅力ある産業にもなりますし、安全な産業

にもなります。細かいところを気にしなくても、ある程度正確なものができるということが非常に重要であり、人口減少という点で若い人に建設業に来てもらうには、そういうことが重要になってくると思います。むしろ今は、農業の方が建設業よりも進んでいるような気もするので、負けることなく取り組んでいかなければいけないと思います。

#### （日本建設業連合会北陸支部長）

けんせつフェアなどで、重機の無人走行などの技術展示をしていると、若い方に非常に興味を持っていただいており、技術展示で見たことを動機として建設業に入職される方もいらっしゃると思います。そういう意味では、次世代の担い手の方々に、いかに興味を持ってもらうかということが、今まで以上に重要だと思っています。

#### （北陸地方整備局長）

子供は、小さいころからミニカーや機械が好きですし、特に、今の若い子供たちは、コントローラーを持って遊ぶ機会が多いので、ドローンの操作は、大人が操作するよりも非常に上手ではないかと思えます。ドローンのような技術が使える現場があることが分かった瞬間に、仕事にとっても楽しみを持ってもらえるのではないかと思いますので、そのような技術を通して、建設業を身近に感じ、入職していただき、力を発揮してもらって、さらに良いものにしていくという、良い循環を生み出すようにしていかなければいけないと思います。

#### ④担い手確保（週休二日の実現に向けて）について

#### （日本建設業連合会北陸支部長）

日建連は、平成27年3月に建設業の長期ビジョンを発表しました。100万人規模の大量離職時代の到来を見据えて、90万人の新規入職者の確保、生産性向上による35万人の省人化といった具体的な

目標を掲げました。建設業界の担い手確保、育成には、いわゆる「新3K（給与、休日、希望）」という魅力を与えられるような勤務環境と処遇改善が必要であると考えております。

また、政府においても、デフレからの完全な脱却を図り、民需主導の持続的な経済成長につなげていくため、働き方改革、生産性革命などの施策に取り組んでおられます。

特に、日建連の取り組みについては、時間外労働の適正化に向けての自主規制に取り組むとともに、週休二日として原則土日閉所の実現に向けた週休二日実現行動計画を策定しております。公共事業においては、さらに週休二日による施工が可能となるような環境整備や適正な工期設定などをお願いしているところです。日建連の取り組みについて一層のご理解とご協力をいただきたいと思いますので、よろしくお祈りします。

北陸地方整備局において、週休二日による現場の施工が可能となるような具体的な取り組み状況等について、お聞かせ下さい。

#### （北陸地方整備局長）

週休二日については、いろいろなお話してお話していますが、例えば、平成二桁に入社された若い方と話していると、自分たちは小学校から高校、大学までは、当たり前のように土曜日が休みでしたと言われます。ところが、建設会社に入ってみたら、これまでの状況と違って、土曜日が休めないと言われます。スーパーやデパートなどでは、土日を働いても振替休日があることを考えれば、我々の業界が、少し特殊なことをしていたのかもしれない、思わなければいけないのではないのでしょうか。週休二日については、我々発注者側も含めて、普通のことをしようとしているのだと、まず始めに思わなければいけないのではないかと、最近思い始めたところです。

北陸地方整備局では、週休二日の対象工事を試行していますが、“現場条件が厳しい”とか“工期に余裕がない”という話があるので、そういうことをきちんと詰めさせていただき、お互いに根拠を持って休めるようにすることが重要だと思います。若い人たちは、先ほど申し上げた感覚ですので、週休二日にならないと建設業に来てもらえない状況です。週休二日で働くことが当たり前の気持ちで、取り組まなければいけないと思います。もちろん、その際のお金の問題がありますけれども、その点は、一緒に話し合いながら、実態調査を含めて取り組んでいかなければいけないと思います。

週休二日を実施した業者にお聞きすると、最初は“書類が増えるのではないかと”とか“工期に間に合うかどうか心配”と感じている人がいました。特段、書類が増えるわけではないので、とにかく当たり前のこととして定着できるようにしていかなければいけないと強く思っており、さらにモデル事業等を通して取り組んでいきたいと思っています。

また、建設会社では、国や県、市町村の工事など、いろいろな工事を請け負われており、会社の中で、片や週休二日、片や週休二日ではないとなると、やっていけないという話も違うところでお聞きしました。

今後は、いろいろな自治体との協議の場を通して、みんなで週休二日を実現していくことが、我々の大事な仕事で、少なくとも公的機関においては統一した考え方にしていくことが非常に重要だと実感しています。

#### （日本建設業連合会北陸支部長）

我々の業界団体で話すときも、日建連などの一定規模以上のゼネコンが休んだとしても、地元業者が足並みを揃えないと、せっかく土曜日を休みにしても、その土曜日に地元の会社の仕事に回って、結局のところ、休んでいなかったりすることも実

際にあるようですので、いかに足並みを揃えるかということが重要だと思います。

一方、民間工事では、見積段階などで発注者と話す際に、開業までの工期設定がかなり厳しいことが多く、完全な週休二日の実現に向けては、かなりハードルが高いと実感しています。

まずは、公共工事から“土曜日は休みが当たり前”という雰囲気を広げないと、民間工事も波及しないし、若い人材が建設業界になかなか入ってきくれないと思います。若い人たちに「建設会社は土曜日にも仕事がありますよね」と言われることが多いので、そこを何とか変えていきたいと考えているところです。

#### （北陸地方整備局長）

工場のような週休二日で働ける環境が良いと考える人が多いので、基本的には、週休二日で成り立つようにしなければいけないと思います。確かに、民間工事のこともあるので、まずは、公共工事からきちんとやっていくことが重要ですし、民間企業の方も、もしかしたら工事を発注する企業は、週休二日もかもしれないので、週休二日の実現に向けて、皆さんを含めて一緒に努力していかなければいけないと思います。

#### （日本建設業連合会北陸支部長）

来年春から導入される建設キャリアアップシステムが広く普及していくと、作業員の就業履歴が出てきますので、土曜日をきちんと休んでいたかの確認も含めて、週休二日の取り組みがやりやすくなると思います。また、土曜日を休むことに対する補助についても考えていかないと、なかなか土日休みが定着しないのではないかと議論も出ています。

#### （北陸地方整備局長）

技能者の方の問題があって、日給で働いている方の問題をどうしていくか。その能力や業績をきちんと見たうえで、考えて

いかなければならない大きな課題だと認識しています。

## ⑤建設界の広報活動について

### (日本建設業連合会北陸支部長)

日建連北陸支部では、安全・安心な国土づくりに資するために社会資本整備の意義や必要性、やりがいなど、そういう理解促進を図るために、積極的に情報発信しているつもりです。土木学会新潟会と共催の「親子工事見学会」、新潟地区、富山地区における大学生を対象とした「市民現場見学会」を毎年実施しているところですが、国土の保全(災害対応等)や地域づくりを担う魅力ある建設産業への理解促進の観点から、広報というものに対し、北陸地方整備局の具体的な取り組み、またはこのようにしていったらどうかということについて、お聞かせ下さい。

### (北陸地方整備局長)

実際に完成したものや建設中のものを見せるということが、極めて大事だと思っています。燕市や三条市のものづくりの工場に何度か行きましたが、訪れた方々に見せるような工場(オープンファクトリー)になっていました。実際には、今工事している現場をいかに見てもらえるようにできるかということと、出来上がったものを長く見てもらえるようにする「インフラツーリズム」のような見せ方があると思います。

まず、後者の出来上がったものについては、我々が造っているものは、単に構造物というよりも歴史的な資産でもあるの



親子見学会(国道7号朝日温海道路1号トンネル工事)

で、きちんとメンテナンスを行いながら見せることが大事だと思います。

また、実際に造っている現場をできるだけ見せることも大事で、そのためには現場をきれいにし、女性も見学できるようにしなければいけないことになります。そのためには費用もかかるので、いろいろなことをご相談しなければいけません。単に、危険だから見学に来ないで下さいということではいけないという観点に立つ必要があります。現場見学会やけんせつフェア、あるいは大学に出向いて話を聞くのも大事です。これから支えてくれる人に、我々からアプローチして、興味を持ってもらうことが大事だと思いますので、「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」をはじめとして、いろいろな取り組みを一生懸命しているところです。

### (日本建設業連合会北陸支部長)

私が、特に各現場にお願いしているのは、きれいで快適なトイレにすることです。やはり、見学会に来られる女子学生や親子見学会と一緒に参加されるお母さんが、“こんなにきれいな環境なら働いてもいいんじゃないか”と、いかに思ってもらえるかということが、大事だと思っています。例えば、見学会の時には、快適トイレに花を生けるなどのちょっとした心遣いみたいなことも、常々現場にお願いしています。

やはり、建設業界は、全体的に男社会というか、どこの現場に行ってもほとんどが男性なのですが、女性が入ると現場のムードもかなり変わります。コミュニケーション能力が非常に高い女性が多いですから、現場の職人をまとめるのも適していると思います。実際に弊社でも、現場で堂々と作業をしている若い女性技術者が増えています。国交省において、できるだけ多くの女性に入ってもらえる仕掛けのようなお考えはお持ちでしょうか。

### (北陸地方整備局長)

我々は、政府の方針もあり、3割の女性

を雇用すべく採用しております。世の中は、半分女性がいることを思えば、3割というのは、もしかしたらレベルが低いのかもかもしれません。

しかし、女性が入ると変わることは事実で、現場をきれいにしたり、建物の中をきれいにしたりするなど、雰囲気が変わります。要するに、世の中の雰囲気と変わらないような雰囲気を工事現場でも作り上げていくことが必要だと思います。長靴や安全靴を履かなければいけないのは仕方がないですが、それ以外のところは、都市部にいても工事現場にいても同じような感覚になるくらいの気持ちでやらなければいけないということではないかと思えます。お立ち台でも何でも良いので、皆さんに見ていただく場所を作り、説明の道具やツールを用意して、いつ来ていただいてもお見せできますという気持ちでやらなければならないと思います。

### (日本建設業連合会北陸支部長)

湧水の出るトンネルなどでは、なかなか難しいですが、現場の中を工場のようにきれいにすることで、工事現場は汚れているといった固定概念を変えるべく、いろいろな現場で努力しています。

### (北陸地方整備局長)

先ほどオープンファクトリーと言いましたが、オープンな現場で、湧水が出て長靴を履かなければいけないことなどは仕方がないのですが、見せる現場、きれいな現場にしていかなければいけません。

現在、大河津分水路の改修事業などでも実施していますが、ICTなどを使えば、出来上がりもバーチャルリアティーで見せることができるので、工事だけではなく、いろいろな説明でも使えば良いと思います。

### (日本建設業連合会北陸支部長)

鉄道の現場などでは、仮設のネットや足場が、建築限界から確実に離隔を取れて

いるかをバーチャルリアティーでチェックするような取り組みをされています。

### (北陸地方整備局長)

北陸地整では、現在、車両を走行しながら、いろいろなデータを取るような取り組みをしており、取得したデータで座標を組んでから管理・点検しています。3次元データを取り、位置をおさえておくということは、設計段階、施工段階でも重要で、管理段階においても、何かあった時に、直ちに位置が出せるというのは、これからは大変に重要になると思います。そのデータを工事の方も使い、うまく活用して地元の方に見せるときにも使う。将来がイメージできると、事業の説得力や説明力も全然違ってきます。

### (日本建設業連合会北陸支部長)

大河津には、大河津分水路に関する資料館があり、新潟の治水を行うことで、豊かな土地になったという歴史の勉強なども含めて、いろいろな方に見ていただける施設になっています。資料館で知識を深めたくて、現在取り組んでいる工事を見ていただくと、一般の方が大河津の改修事業の意義も含めて理解していただく良い契機になりますね。

### (北陸地方整備局長)

事業の歴史などをきちんと説明することは極めて重要です。例えば、大河津分水路でも、立山砂防でも良いのですが、北陸地方は、東京と大阪には及ばないまでも、ほぼ同時期にいろいろな投資がなされているのです。大河津分水路の事業も、淀川と荒川の次に実施しています。砂防のスタートは、ほぼ立山と言ってもいいくらいです。当時の優秀な技術者が来て、しかも最新の技術でいろいろなものを造りました。今、それが一部文化財になっていたりするので、そういうことも分かっていたらいいように、きちんと説明できるようにしていくことも重要だと思います。

## ⑥日本建設業連合会への要望について

### (日本建設業連合会北陸支部長)

建設産業は、国内総生産または全産業の中の一般労働者の中では1割余りを占めており、基幹産業であるという自負があります。特に、北陸地域というのはそのウエイトが他の地域よりも高く、重要な産業であることを認識しています。

北陸の活力ある地域づくりという観点から、日建連または建設業界に対してご意見、ご指摘、またはここがダメなのではないか、こうするべきではないかというお話がありましたら、ぜひ、お聞かせ下さい。

### (北陸地方整備局長)

働き方とか週休二日の話をさせていただければ、建設業界も、普通の業態として、普通の働き方になるようにしていかなければなりません。日建連は大手の集まりですから、その旗振り役として役割を果たしていただかなければならないと思っております。実際に、先頭に立ってやっていたと思いますが、さらに推し進めていただきたいと思っています。

また、建設業によって、災害の対応とか地域のインフラが守られていることは間違いないので、それをきちんと維持していくことが重要だと思います。そういう意味では、目標を見せることも必要で、どういう目標、どういう計画でやっているのかを見せることが重要です。

また、いろいろな意見が建設業界の中にあると思いますので、是非ともまとめ役として、いろいろな意見を拾っていただいて、対等な立場で意見交換をして、より良いものにしていく、より良い関係にしていくことが重要だと思っています。いずれにしても、日建連には、旗振り役として、リーダーシップを発揮していただきたいと思っています。

## ⑦災害対応について



### (日本建設業連合会北陸支部長)

近年では、関東・東北豪雨、熊本地震、昨年は九州北部豪雨、本年は西日本豪雨や北海道胆振東部地震などの大きな自然災害が発生しています。北陸地域においては、大きな災害の被害もありませんでしたが、大規模な災害対応についての考え方や新たな取り組みがありましたらお聞かせ下さい。

### (北陸地方整備局長)

北陸では、地震というと平成16年の中越地震、平成19年の能登半島地震、中越沖地震。水の災害で言うと、平成16年、23年の新潟・福島豪雨がありました。今年は7月の豪雨もありましたし、大型の台風や北海道胆振東部地震もありまして、“観測史上最大”とか“かつてない”ということは何も言えない状況にあると思います。

北陸地方整備局でも、TEC-FORCEとして3つの災害に職員を派遣しました。北陸地整としては、どこかで大きな災害が発生したら、ほぼ自分の災害と思って応援をしなければいけないと思っています。

また、9月には、総理大臣から災害の点検をなさい、という指示がありました。一つは、電気が切れたらどうするのか。それから河川のバックウォーターみたいなことがあったらどうするのか。あるいは交通ネットワークが寸断されたらどうするのか、点検をなさいという指示があり、政府全体で点検を行い、11月21日に点検結果を公表しました。

その点検結果を受けて、「防災・減災、国土強靱化のための緊急3か年計画」として、先週の14日に計画を取りまとめたところ。発表資料によりますと、160項

目にわたる対策を、7兆円規模で行うことになっており、大きな災害を受けて計画的に取り組もうとする3か年の計画ができたことは、非常に大きな第一歩になったと思います。そういう意味では、平成31年度は、しっかりやっていかなければいけない重要な年になったのではないかと思います。

**(日本建設業連合会北陸支部長)**

平成23年に紀伊半島で大水害がありました。ちょうどそのときに、私は奈良県の大滝ダムで工事をしていました。深層

崩壊が各所で起こり、川がせき止められ、決壊すると下流に土石流が流れる事態の時に、TEC-FORCEの方がお見えになり、ヘリコプターで大きなポンプを1日で準備され、溜まっていた水を排出していただきました。非常に機動力があるということ、我々民間でもなかなかできないようなことを迅速に対応され、下流の避難されていた方の住宅を守ったという経験をさせていただきましたが、全地方整備局において、どこかで大きな災害が発生したら駆けつけるみたいな形になっているのですか。

**(北陸地方整備局長)**

TEC-FORCEにおける災害地域への応援の要領や実施計画も策定されていますので、何かあれば、ある程度本省で調整はしますし応援します。応援するに当たって職員は、自分で泊まることを確保し、装備も持っています。大体1週間くらい行っていましたが大変だったけれども、地元の方から非常に感謝され、行った甲斐があったと言ってくれます。応援に行く人のための後方の支援もしっかりしていないといけないことも徐々に分かってきて、そのようなノウハウも得ながら

ら対応しています。

皆さんが、やりがいを感じて帰ってこられるので、応援に出たら、みんな“やるぞ”という感じで、これは非常にいいことだと思っています。

**(日本建設業連合会北陸支部長)**

私はこの3月まで5年間横浜にいましたが、首都圏に大きな地震が来たときの首都圏までの道路の啓開業務を日建連が主体になり、年に1回訓練をしていましたが、北陸ではそのような取り決めはありませんか。

**(北陸地方整備局長)**

災害協定を結ばせていただき、災害時に協力をお願いしていますが、どこを啓開するかといった範囲までは決めていないと思います。我々の拠点は、新潟県、富山県、石川県にそれぞれ持ちながらやっていますので、是非とも、何かあったときにはご協力をお願いします。何かあったときには、恐らく、近くの工事現場等から機械を用意していただいて協力いただくことになると思いますが、これからは、そういうことも把握しなければいけないのではないかと考えており、自分たちの持っている装

## TEC-FORCE活動

### 平成29年7月 九州北部豪雨に係る支援

平成29年7月9日～7月21日 7班27人、延べ173人  
 ■ 総合司令班: 支援調整・総括(九州地方整備局TEC-FORCE総合司令部詰め)  
 ■ 被災状況調査班: 砂防、道路(福岡県朝倉市)



被災状況調査(砂防)



被災状況調査(道路)



被災状況



被災状況調査(砂防)



被災状況調査(道路)



被災状況

### 平成30年 大阪府北部の地震

平成30年6月18日、大阪府北部を震源地とする、最大震度6弱の地震が発生。高槻市における公共建築物のブロック塀の「応急危険度判定調査」(7施設)を実施しました。【被災状況調査班(建築班)】



調査状況



高槻市との打合せ

### 平成30年7月 豪雨災害

平成30年7月豪雨災害における被災に対し、下記の活動等を実施しました。  
 ○ 浸水箇所の緊急排水【岡山県倉敷市真備町】  
 ○ 被災状況調査(砂防・道路)【広島県広島市周辺市町村】

#### 広島県

- 広島市/被災状況調査(砂防)
- 広島県庁/高度技術指導(砂防)
- 海田町/被災状況調査(砂防)
- 熊野町/被災状況調査(砂防)
- 坂町/被災状況調査(砂防、道路)
- 呉市/被災状況調査(砂防、道路)
- 東広島市/被災状況調査(道路)
- 三原市/応急対策班(緊急排水)

#### 岡山県

- 倉敷市/応急対策班(緊急排水)

#### TEC-FORCE派遣状況

平成30年7月7日～7月31日

#### 災害対策機械派遣状況

- 排水ポンプ車  
4台(7月7日～7月13日)  
2台(7月27日～7月30日)
- 照明車  
2台(7月7日～7月13日)  
2台(7月27日～7月30日)
- 防災ヘリ  
7月9日～7月18日、  
7月30日～8月2日



総合司令班 班長会議状況



被災状況調査班(砂防班)活動状況



被災状況調査班(道路班)活動状況



応急対策班(緊急排水班)活動状況

### 平成30年 北海道胆振東部地震に係る支援

平成30年9月6日～9月17日 10班46人、延べ255人  
 ■ 総合司令班: 支援調整・総括(北海道開発局TEC-FORCE総合司令部詰め)  
 ■ 被災状況調査班: 砂防、道路(北海道三笠市、厚真町、安平町 他)  
 ■ 応急対策班: 応急復旧(遠隔操縦型バックホウ、照明車)(北海道むかわ町 他)  
 ■ 大型液状油回収船「白山」: 海洋汚染防除、緊急物資輸送・入浴・洗濯・給水・給油支援(苫小牧港)



三笠市 土砂災害危険箇所点検



厚真町 被災状況調査(道路)



鶴川河口左岸 応急復旧支援(照明車)



厚真町 被災状況調査(砂防)



安平町 被災状況調査(道路)



苫小牧港 給水支援「白山」

# 平成30年度「建設技術報告会」

■開催日／平成30年10月25日(木) ■会場／石川県地場産業振興センター(本館)

備だけではなく、いろいろな現場に、どのくらい機械があるのか、ある程度把握したうえで災害に臨まなければいけないと思っています。

## (日本建設業連合会北陸支部長)

阪神・淡路大震災の復旧工事などでもそうでしたが、機械といっても建設会社が自前で持っているものは多くないので、レンタルリースの建機会社などから、どの程度の機械を準備できるのかを、もう少し想定しながら把握する必要があると思っています。

実際にどういうことが本当にできるのか、日建連全体の中で調整するというか、どのくらいの機械があって、いざというときにどういう体制が組めるのかをシミュレーションしておくことが重要だと思います。

## (北陸地方整備局長)

そうですね。時点、時点で変わるので、春の時期だとこのくらい、夏の時期はこのくらいの機動力を確保できるということをおさえておくことが重要だと思います。

## ⑧終わりにあたって

### (北陸地方整備局長)

大手の建設業の方が全体を牽引していると思いますので、是非とも、週休二日と働き方改革、担い手確保については、常に先頭に立ってやっていただきたいと思っています。

まずは、新3K(給与・休日・希望)をきちんとやることに加えて、一つは安全に。安全にという意味は2つあって、事故などがない安全もありますし、交通安全や防犯上の安全みたいなものもあります。そのような施策で現場も事業も進めていかなければいけないと思います。もう一つは、スマート。まさにICTにつながる話ですが、いろいろなものを使いながら賢く効率的に効果的にやっていかなければいけないということがあります。もう一つは、サステナブル。安定的に事業を進める、企業側からすれば計画性を持って進めていくということであり、我々の中ではメンテナンスをどうしていくかということなのですが、やはり、持続可能であることが重要だと思

います。働き方改革を進め、担い手を確保したうえで、国土や地域のために何をやるのか、どういう役割を果たしていくのかを少しずつ言えたらいいと思って、そのようなことを言って反応を見ているところです。

この前、建設業の青年と話す機会があり、平成はどのような年でしたかとお聞きしました。恐らく、平成は、戦後にいろいろ作ったシステムを見直さなければいけなくなった時期で、必ずしも答えが出たのか分からない。人によっては、10年20年停滞してしまったのではないかとおっしゃいますが、新しい元号になれば、その次の出口があるはずなので、もう一度平成を振り返りながら、次に向けて進んでいくとき、どういふスローガン、どういふ気持ちでやるのですかということで、3つ(セーフ(安全)、スマート(賢く)、サステナブル(持続可能))を皆さんに投げかけています。半年経ったら変化しているかもしれませんが、そういう気持ちで、次の新しい元号を迎えれば良いのではないかと考えており、そういう話を平成の終わりにしています。



「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図ることを目的とし、北陸地方建設事業推進協議会の主催で、平成7年から開催され、今年で23回目を迎えました。

当日は、約400名の参加者のもと、北陸地方整備局の小山地方事業評価管理官が開会の挨拶をされ、国土交通省 国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター長の清水晃氏より、「ICT活用による建設生産性の向上」と題して基調講演が行われました。

基調講演後、16技術の発表が行われ、日建連北陸支部会員会社からは7技術の発表がありました。

また、報告会場前のギャラリーでは、24技術のパネル展示があり、日建連北陸支部会員会社からは12技術のパネル展示がありました。

最後に、鈴木実行委員長による報告会の総評と閉会の挨拶で終了となりました。



開会挨拶(小山地方事業評価管理官)



基調講演(清水氏)



鈴木実行委員長による総評・閉会挨拶

## 【技術報告を行った日建連北陸支部会員会社と報告内容】

| 会社名      | テーマ区分 | 報告内容                           |
|----------|-------|--------------------------------|
| あおみ建設(株) | ②     | 供用中の栈橋を効率的に補強するRe-Pier(リピア)工法  |
| (株)大林組   | ②     | EMC壁高欄とスリムファスナー 一床版取替工事の急速施工一  |
| 鹿島建設(株)  | ⑥     | ダム堤体高上げ工事の工程短縮対策とコンクリートの品質管理   |
| 五洋建設(株)  | ①     | 栈橋の調査診断システム「i-Boat」            |
| 清水建設(株)  | ①     | コンクリートのこぼれを低減できる混和剤「チキシリデュース」  |
| 日特建設(株)  | ②     | 老朽化したのり面の補修補強技術とその適用例          |
| (株)不動テトラ | ①     | 消波工の測量点群を用いた消波ブロックのソリッドモデリング技術 |

### 報告テーマ分類

- ① 「良いものを安く(i-Construction)」
- ② 「社会資本の的確な維持管理・更新」
- ③ 「雪に強い地域づくり」
- ④ 「自然災害からの安全確保」
- ⑤ 「環境の保全と創造」
- ⑥ 「その他」

## ■技術報告状況



技術報告状況



パネル展示状況

# 親子工事見学会・市民現場見学会

## 小学校高学年を対象とした「親子工事見学会」を開催

平成30年7月、(公社)土木学会関東支部新潟会および(一社)日本建設業連合会北陸支部の共催による「親子工事見学会」が行われました。

## 高専と大学の学生を対象とした「市民現場見学会」を開催

平成30年9月、(公社)土木学会関東支部新潟会「研修会」および(一社)日本建設業連合会北陸支部「市民現場見学会」を共催で開催しました。

### 長岡班

- 開催日：平成30年7月26日(木)
- 見学先
  - 【国道289号(八十里越)の橋梁工事】
  - 工事名：国道289号5号橋梁下部その2工事
  - 発注者：北陸地方整備局(長岡国道事務所)
  - 施工者：株式会社 大林組
  - 工事名：国道289号2号橋梁上部工事
  - 発注者：北陸地方整備局(長岡国道事務所)
  - 施工者：株式会社 安藤・間
  - 【長岡除雪ステーション】
  - 長岡国道事務所 長岡維持出張所



橋梁工事の説明に



除雪機械にてニコリ



高さ80mの橋脚にて



長岡除雪ステーションにて記念撮影

### 新潟班

- 開催日：平成30年7月28日(土)
- 見学先
  - 【トンネル工事】
  - 工事名：H28-31朝日温海道路1号トンネル工事
  - 発注者：北陸地方整備局(新潟国道事務所)
  - 施工者：鹿島・福田特定建設工事共同企業体
  - 【造成工事】
  - 工事名：加治川用水農業水利事業 松岡ため池建設工事
  - 発注者：北陸農政局(加治川二期農業水利事業)
  - 施工者：大成建設株式会社



トンネル内にて記念撮影



大型重機と一緒に記念撮影

- 開催日：平成30年9月18日(火)
- 見学先
  - 【トンネル工事】
  - 工事名：H28-31朝日温海道路1号トンネル工事
  - 発注者：北陸地方整備局(新潟国道事務所)
  - 施工者：鹿島・福田特定建設工事共同企業体
  - 【造成工事】
  - 工事名：加治川用水農業水利事業 松岡ため池建設工事
  - 発注者：北陸農政局(加治川二期農業水利事業)
  - 施工者：大成建設株式会社



朝日温海道路トンネル記念撮影



トンネル工事の説明を熱心聞く学生たち



松岡ため池の説明を熱心に聞く学生の皆さん

当日は長岡班・新潟班ともに小学校高学年の児童たちと保護者の方々が参加され、猛暑にもかかわらず、熱心に耳を傾けて現場に興味深く見学する姿が見られました。

橋梁工事の見学では、高さ約80mまでエレベーターで上がり、そこから眺める景色に児童たちは大喜びでした。(一部の保護者の方は怖がられていましたが…)

また、途中まで架けられた上部での記念撮影ではドローンが登場し、皆さん笑顔でポーズ。

除雪ステーションでは、冬でしか見ることのできない大型除雪機に興奮し、来たる降雪期に備えて様々な人々が関わっていることを知ることができました。

トンネル工事の現場では、掘削機械の作業デモンストレーションを見たり、大型ダンプトラックに実際に乗ったりと、楽しくトンネル工事を体験していました。

造成工事の現場では、大型ダンプの走行状況や、ドローンの操作を間近で見ることができ、バックホウなどの大型重機の運転席に乗ることができました。

何れの場所でも、子供たちからは、多くの質問があり、土木工事に興味を持ってもらえた様に思います。

見学会開催後のアンケートでは、大半の方々に「今後も当見学会に参加したい」、「子供との夏休みの良い思い出になった(保護者)」等の声が聞かれました。

また、「将来に建設関係の職業を選びたい(児童)」、「選んでもらいたい(保護者)」の声が年々増加してきたことについても、意義のある見学会だったのではないのでしょうか。

最後にご多忙の中、見学会にご協力頂きました北陸地方整備局様、北陸農政局様をはじめ、施工者関係の皆様、大変有難うございました。

当見学会は、学生の方々に対し「担い手の確保および育成」活動の一環として、建設現場のやりがい、魅力を発信するとともに実際に現場環境を肌で感じて頂き、建設業で働くイメージを形成することを目的として開催しています。

午前の部では「朝日温海道路1号トンネル」の現場を訪問しました。現在、新潟県から秋田県の主要都市を結び青森県に至る延長約322kmの日本海沿岸東北自動車道(日沿道)の整備が着々と進められていますが、そのうち「朝日まほろばIC～あつみ温泉IC(延長約41km)」区間は「朝日温海道路」として事業化されています。

現地では、施工者からトンネルの作り方、使用機械の紹介等について分かり易く説明がなされ、長大トンネルのスケールを感じて頂きました。

午後の部では「松岡ため池建設」の現場を訪問しました。当工事の概要は加治川用水地区全域において、農業用水の不足を補うために建設される新たな貯水施設です。この「松岡ため池」は最大0.29m<sup>3</sup>/秒の農業用水を供給する有効貯水容量約330,000m<sup>3</sup>を持つ補助水源となります。

現地では、広大なエリアでの造成工事を目の当たりにすることができ、今後に予定される表面遮水工事にも興味を持って頂いたと感じました。普段ではあまり考えることのない灌漑(かんがい)事業についても、改めて知識を得る良い機会となったのではないのでしょうか。

見学会開催後、学生を対象としたアンケートでは、多くの方々に建設業界への就職希望を頂きましたが、改善を期待する事項では、給与より「週休二日の確保」、「労働時間の改善」等が上位を占めました。

今後も「働き方改革」をはじめ、魅力ある建設業へ向けて、更なる注力が期待されます。

見学会にご協力頂きました北陸地方整備局様、北陸農政局様ならびに鹿島・福田JV、大成建設の皆様、誠に有難うございました。

## 石川・富山地区「市民現場見学会」を金沢の2校の大学生を招いて開催

9月18日(火)日建連主催の市民現場見学会(石川・富山地区)を開催しました。  
 今回見学会には、夏期休暇中にも関わらず、金沢大学23名、金沢工業大学18名の参加を頂きました。(引率支部メンバー4名、本部メンバー2名 合計47名)

- 開催日：平成30年9月18日(火)
- 見学先
  - 【港湾工事】
  - 工事名：金沢港(南地区)岸壁(-7.5m)(改良) 築造工事(その3)工事
  - 発注者：北陸地方整備局(金沢港湾・空港整備事務所)
  - 施工者：五洋・みらい特定建設工事共同企業体
  - 【橋脚下部工事】
  - 工事名：猪谷楡原道路 片掛橋下部その2工事
  - 発注者：北陸地方整備局(富山河川国道事務所)
  - 施工者：清水建設株式会社



橋脚工事事業説明



港湾工事事業説明



橋脚工事質問タイム



橋脚工事事業説明



港湾工事事業説明



橋脚工事現場概要説明



港湾工事現場概要説明



港湾工事現場概要説明

午前中は港湾工事の現場を訪問し、金沢みなと会館で施工者の五洋・みらいJV小林所長より事業内容を、稼働中の深層混合処理船の前で同JVの監理技術者内田主任より工事概要と施工手順等を説明頂きました。

当事業は増大したクルーズ船の受け入れと緊急物資の輸送拠点としての機能を確保するために老朽化した金沢無量寺岸壁を更新改良するとともに耐震強化岸壁としても整備するものです。

午後は橋脚下部工工事の現場を訪問し、国交省富山河川国道事務所 奥村建設監督官による「国道41号線 猪谷楡原(いのだににれはら)道路事業の全体概要説明を頂いた後、施工者の清水建設磯部所長による工事概要(ニューマチックケーソン工事)と施工手順等を説明頂きました。

仮設構台上からケーソン設置箇所を眺めながら工事関係者が工事進捗などを説明し、学生から監理技術者の宮崎主任と磯部所長に対して活発に質問がありました。

事後の学生へのアンケート結果では、「普段見ることができない施工中の現場を見ることが出来て勉強になった」「金沢港の岸壁ができる様子が理解できた」「ニューマチックケーソンを実際に沈めていく段階が見てみたい」「ダム・トンネル工事・新幹線新設工事などの別工事も見学したい」という意見があり、これらを次年度見学会の企画に活かしたいとおもいます。

また、就活前のインターンシップでは非ゼネコンの現場に行き、実際の仕事ぶりを体験したほうが良いとアピールできたと思います。移動時間のバス車中に、DVD版の「黒部の太陽」を上映して学生たちも興味を示してくれました。(初めて見たという学生さんが多かったのが意外でした)

尚、市民現場見学会の内容については将来的には石川・富山地区でも小学生を対象とした親子見学会が開催できるように、活動のレベルアップを図りたいと思います。

最後に、見学会開催にご協力頂きました北陸地方整備局様、ならびに五洋・みらいJV、清水建設の皆様へ厚く御礼申し上げます。

## MY PRIVATE TIME

私のプライベートタイム



東亜建設工業(株)北陸支店  
支店長  
日野 雅博  
Masahiro Hino

## 「休日のお楽しみ」

|   |  |   |
|---|--|---|
| 私は、大分県で生まれ、幼稚園から高校卒業まで新潟市内で育ちました。大学卒業後、昭和60年に当社に入社し、東京支店、大阪支店、東北支店を経て、平成8年より北陸支店に配属され、平成29年より北陸支店長となり現在に至っております。  | もWindowsとなり、複雑すぎて中身がどうなっているかがわからなくなったことから、もっぱらインターネット利用がメインですが、今でも自宅で作ったPC2台を改造・改良しながら使っています。  | 忙しい現場で、仕事はもちろん、所長とのお付き合いにも一生懸命ついて行きました。気がつけばお酒が飲めるようになっていました。今でも大酒は飲めませんが、毎日の晩酌で一日の疲れを癒やしています。  |
| さて、私のプライベートタイムということで、社会人になってからの休日の過ごし方を思い出してみました。   | 【温泉】<br>20代後半、岩手県の山奥で新幹線のトンネルを2kmほど掘りました。いわゆる飯場での生活で、休みには少しでも宿舎を離れようと、温泉へ行くようになりました。その後結婚し、夫婦で東北の温泉を楽しむようになりました。休日ごとに有名どころを訪ね、夏休みには北海道の温泉にも行きました。北陸でも、さらにお気に入りを開拓しました。最近では、たまに県内の日帰り温泉に行く程度ですが、温泉に浸かり、休憩室で文庫本を読むのが至福のひとつとなっています。 | 【ゴルフ】<br>20代中頃、明石海峡大橋の現場にいました。時代はバブル全盛期、ゴルフ場の多い兵庫県ということで、必然的にゴルフを始めましたが、あまりの下手さにセンスがないと気づき、すぐにやめました。そして50代前半、営業職になった時、当時の支店長から「ゴルフをやれ」と言われ、再度チャレンジです。支店長になった一昨年は約20回、昨年は約30回ゴルフに行っています。せっかくなら楽しもうと、休日には足繁く練習場に通っています。しかし、そもそも下手なので、回数を重ねても、あまり上達しません。それでも血压等の改善のため、主治医から運動を進められていることもあり、健康のために練習しています。今は、「脱 百獣(110)の王」、「目指せ100切り」が目標です。 |
| 昭和63年 入社3年目に本社で自社積算ソフトの開発担当となり、その当時はまだ珍しかった「パーソナルコンピューター」の便利さと可能性にハマりました。自分でもすぐに秋葉原で、PC-9801VX21を約24万円で購入。その後 gateway というメーカーのDOS/V機、部品を買ってパソコンを組み立てる「自作PC」へと移行していき、趣味で情報処理の資格を取ったり、パソコン関連の書籍を読み漁ったりしました。パソコンや自作のプログラムがうまく動かないことがかえって面白く、休日は夜遅くまでPCの自作やプログラミングに没頭しました。最近はOS | 【お酒】<br>若かりしころ お酒が弱く、ビールコップ一杯で顔が真っ赤になり、よくダウンしました。30代中頃、上越市で延長約1Kmの海上栈橋を造る現場で、当時の所長が大のお酒好きでした。  |   |

現場で輝く  
けんせつ小町



「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。建設現場で働く技術者・技能者、土木構造物や建物の設計者、研究所で新技術を開発する研究者、お客様とプロジェクトを進める営業担当者、会社の運営を支える事務職など、活躍の舞台は多岐にわたります。

## 「地元の新幹線の工事に携りたい」

**Q. 建設業界(土木技術者)を目指したきっかけを教えてください。**

**A.** 高校生の時に、「フリーター、家を買う」を読んでものすごく感動したのが建設業界に興味を持つきっかけでした。

自堕落な生活を送っていた主人公が道路会社でアルバイトすることになるのですが、最初はヤル気の無かった仕事でしたが、徐々に成長し、工事を無事に完成させた時の全員で喜びあうシーンがものすごく印象的でした。

転職を考えていた時に思い出したのが先ほどの本で、「私も道路工事してみたい!」と思い会社を探しました。

当時は建設業界の事は何も知らなかったのですが、多分、舗装会社さんだっただけですが、面接に行ったら、道具は重い、汚い、危険なので女性の採用はしていないと断られました。

諦めきれず他の会社を探しているときに、「女性、未経験者 歓迎」の建設関係の派遣会社の求人が目に入り、そこに入りました。

測量など一通りの工事管理の研修の最後に希望先を決める面談で、「自分が見つけた構造物がGoogle mapで見れるような仕事がしたい、今なら新幹線の工事がやりたい」と希望して、今この現場で働いています。

**Q. 現在担当している業務、やりがいを感じる点、難しいことを教えてください。**

**A.** 現在は、加賀温泉駅舎部分の場所打ち杭の施工管理を担当しています。初めて自分で担当したブロックの16本の場所打ち杭が完成したときは、達成感がありました。翌日には次の仕事がきてじっくりと達成感に浸っていただけなかったのですが。(笑)

土質等の状況により掘削時間が変わるし、場所により重機の動線も変わるので、施工計画や日々の段取りに日々苦

労しています。

**Q. 女性が働く上で、職場環境(建設業界全体でも)は?今後希望することは?**

**A.** 今のところ特にはないのですが、測量機器ってなんであんなに重いんですね、もう少し軽くなりませんか?(笑)

あと、男性に比べ背の低い女性からすると掲示物一つとっても「高い所」での作業はつらいですね。

**Q. 女性に建設業を選んでもらうためには?**

**A.** 建設業界は男性社会だと思います。決して悪い意味ではないのですが、やはり女性としてはアウェー感があります。

でも入ってみると、作業員さんもみんな女性には優しいです。パキケドとか重い物を運んでいるとすぐに手伝いに来てくれます(笑)

地図に残るような大きな構造物は、女



大林・名工・宮地JV  
(北陸新幹線、加賀温泉駅高架橋)

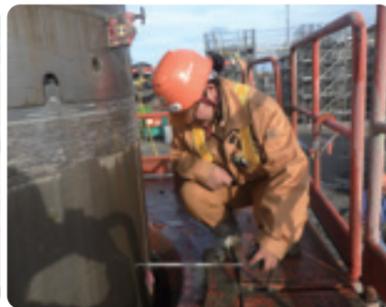
針木 杏菜

Anna Hariki

今回は、大林・名工・宮地JVに勤務され北陸新幹線、加賀温泉駅高架橋工事に携わっている針木杏菜さんをご紹介します。

性でも興味のある人は少なくないと思います。あまり深く考えず、「とりあえずやってみる」でもいいと思います。やってみないと自分に適性があるかどうか分からないと思いますし、寛容に受け入れてもらえたら、女性も建設業を選択肢として考える人もいるのかなと思います。

※「フリーター、家を買う」著者・有川浩



私がラグビーに携わるようになったのは、高校に進学した際に「マネージャーが不足している」と勧誘をうけ、見たこともなくルールも分からないスポーツのマネージャーを引き受けたことがきっかけでした。その後、すっかり魅了され、大学・社会人と気づけば10年以上経過しています。

日本において、「ラグビー」は野球やサッカーに比べるとマイナーなスポーツでした。広く認知されるようになったのは、2015年のイングランドワールドカップで当時世界ランク3位の南アフリカに劇的な逆転勝利をし、またルーティーンで一躍脚光を浴びた五郎丸歩選手の活躍がきっかけでした。マイナースポーツのマネージャーだった私は、当時のラグビーフィーバーを先取りしていた気持ちで、すごく誇らしく思ったことを記憶しています。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、ラグビーは1試合80分で40分ずつ前後半に分かれ、一チーム15人で行なわれます。一般的には大柄な男たちが

スクラムを組んでいるイメージがあると思いますが、体格のよい人が重宝されるだけではなく、俊敏性が求められたり、判断力が求められたりと、様々な個性を生かしてプレーできる、まさに「チームワーク」のスポーツです。私は運動が得意ではなく、スポーツに対して苦手意識がありましたが、誰でも活躍するポジションが与えられることにとっても魅力を感じました。

新潟県には小学生から社会人と様々な年代のチームがあります。社会人チームは9チームあり、県内リーグも行なわれています。私の所属する新潟アイビスは、10代から40代まで約40名が所属しており、現在は東日本トップクラブリーグのディビジョン2で県内外での公式戦を年間10試合弱戦っています。

マネージャーと一言でいっても、スポーツや所属するチームによってその役割は様々です。私は試合前の事務手続きや、試合中の補助を主に任せてもらっています。試合を運営するスタッフの一員として、最前列の観客よりも近く、

ライン際で試合の迫力を感じられる瞬間が一番の楽しみです。

2019年は世界3大スポーツ大会と言われるラグビーワールドカップが日本で開催されます。試合会場は、北は北海道から南は九州まで。残念ながら北陸地方での試合や練習は予定されていませんが、試合会場のみならず練習会場となるキャンプ地にも日本各地に海外から大勢の選手・観光客が訪れることとなります。

最近では地上波のテレビ中継でラグビーの試合が流れることが多くなり、ルールは分からずとも一度は見たことがあるという方もいらっしゃると思います。しかし、やはりテレビと生で試合を見るのでは迫力が違います。生の試合で体と体がぶつかり合う音や、ラグビーならではのファンと選手との近さをぜひ一度、試合会場で体験して頂きたいです。見ているだけでは体がウズウズしてくるという方は、ぜひ一度、お近くのチームでラグビーを体験してみたいかでしょうか。

## エッセイ ESSAY

### 『ラグビーに魅せられて』



新潟アイビスラグビーフットボールクラブ  
マネージャー

木村 湖

Umi Kimura



## 「発酵の町「沼垂」でクラフトビール造り」



沼垂ビール株式会社 代表取締役  
高野 善松 Zenmatsu Takano

新潟県から北東へ徒歩15分くらいのところに、沼垂(ぬまつり)という土地がある。ここには、江戸時代、新発田藩(新潟県で大きな大名)の米蔵があった場所。

北蒲原平野(新潟県北東部)で収穫されたお米がすべてここに集められ、大阪に回米船(かいまいせん)で運ばれていた。

明治の終わり頃、沼垂には8軒の酒醸造

所と、味噌・醤油を造っていた醸造所が約30軒あったという。自分が小さかった頃(昭和30年代)今も操業している「現代司酒造」「越の華酒造」のほか「小松原醸造所」があった。通っていた沼垂小学校の帰り道、いつも現代司酒造の建物から流れる水蒸気や野村味噌や堀川味噌の味噌蔵から独特の匂いが、沼垂の町らしさを物語っていた。

そして、平成の時代も終わり、次の時代に移り変わる今、沼垂の地場産業「発酵食品」の歴史を大切にすることは、地域振興・地域活性化のため大いに意味があると思う。

また、沼垂は新潟駅から1キロのところ。江戸時代、幕末、そして明治と独自の歴史を積み重ねてきた町。昭和の感じが今も残る貴重な観光スポットとしても、可能性が十分にあると考えてきた。

「クラフトビール」も「発酵食品」のひとつ。丁度、クラフトビールブームが始まりかけた頃(3年前)から「発酵の町 沼垂ビール」として、地域性を打ち出したビール醸造ビジネスを始めた。それも、マイクロブルワリーとよばれ

る小規模醸造所。規模が小さいから、まちなかの空き店舗を活用して、小資本で立ち上げができた。

今では、小ロット醸造の強みを活かして、10種類以上のクラフトビールを、新潟市内を中心に提供している。クラフトビールブームがまだまだ続く頃、酒どころ新潟の土地で、クオリティと鮮度を重視して、新潟というニッチなマーケットでがんばっていききたい。

\*詳しくは、「発酵の町 沼垂ビール」  
<http://nuttaribeer.co.jp/>をご覧ください。



## 「ポルトガルに恋して」



ワイット 株式会社 WIT  
代表取締役  
瀬賀 孝子 Takako Segata

ポルトガルへは二度旅行した。最初は友人とフリーで、二度目は一人でツアーに。

ポルトガルに興味を持ったのは、大前研一が「日本は優雅に衰退していくのがいい、ポルトガルのように」と書いていたから。背を押したのはホテルソムリエの「本当に美味しいポルトガルワインを飲みたいなら現地に行くしかない」という言葉。ならば行ってみようと思

かけ、いくつかの魅力にすっかりハマってしまった。一つはポルトガルの演歌と称される fado(ファド)。シニョール・ヴィーニョ(マスター・ワイン)の店で、私は一人の男性ファディスタ(fado歌手)の虜になった。「博士」とあだなされるコインブラ大学出のエリートで「明るい哀しみ」を感じさせる美声を持つ。私達は店に五時間も居続け、fadoに聴き惚れたのだった。

もう一度「博士」の美声をナマで聴きたくての二度目のポルトガル旅行だった。「博士」が出演する金曜にリスボンに入るツアーを探すのが一苦労。その上に店の席予約が取れない。えーいっ、頼めば一人くらい入れてくれる!と、予約無しのまま店に押しかけた。片言のポルトガル語で美青年ギャルソンに頼んだら入れてくれた。ホントになんとかになったのだ。夜も十時頃になると観光客は帰り、地元のファン達がファミリーで店にやって来るのだが、その時間になって私も席に着くことができた。日付が変わる頃に看板スター「博士」の登場。やっと私は甘いポルトワインと頬に伝わ

る涙と共にfadoを聴くことができたのだった。あぁ、もう一度ポルトガルに行き、本場のfadoを聴きたい!!

- ・新潟大学講師。
- ・新潟県高齢者大学講師。
- ・販売士養成講習会講師(販売士1級)。
- ・日本ドラッカー学会会員。人を大切にする経営学会会員。



# ゆるたいむす

## 「留学生活」



新潟国際情報大学 学生  
川見 光 Hikari Kawami

私がフィリピンへ留学に行ったのはもう4年前になります。母の生まれ故郷であるフィリピンで生活してみたいという思いから、高校3年生の時に留学しました。フィリピンでの1年間の間で起きた出来事は今でも鮮明に覚えていますし、そこでの経験が今の私の力になっていると感じています。そのフィリピンでの生活を紹介したいと思います。

留学はキラキラとした楽しい生活を想像していましたが、私の留学生活がそうではないことに気づいたのは留学先に着いた時でした。飛行機から見える景色は広いビーチとヤシの木ばかりでここにはどんな生活が待っているのだろうと、不安を覚えました。

生活は日本の時代を何代か戻したようなもので、ご飯を炊くには薪を割るところから、裏庭で魚を釣り、庭の鳥の卵を食べます。洗濯はたまに降るスコールの水を使って手洗いをします。日本でいかに自分の生活が幸せだったかを痛感しました。結果、生活には慣れることができました。満員になるまで発車しない時刻表のないバスや、得体の知れないストリートフードまで、今では全てが懐かしく思います。

こんな生活を乗り越えられたのはフィリピン人の性格の良さがあったと思います。フィリピン人はとても人に関心があります。よく気にかけてくれ、みんなが明るく、誰の誕生日なのか分かってなくてもパーティがあればその家に誰でも入ってご飯を食べます。雨が降れ

ば学校は休校、みんなが部屋で歌い出します。日本では味わえない空間がそこにはあり、そんな温かい環境を今ではとても愛おしく思います。

これは私の行ったフィリピンのダバタンという街でのことで、日本人が旅行で行くような街ではないですが、私はこの経験とフィリピンの温かさを伝えていきたいと思っています。



## 「お客様への感謝」



上新電機 株式会社  
家電製品アドバイザー  
須貝 圭祐 Keisuke Sugai

私は店頭にて接客販売をしています。元々販売や商品管理に興味があり、学生時代から販売士検定の資格や、ビジネスマナーなどの資格を取得してきました。

そして、縁がありこの職場に就職致しました。携帯電話など、機械等が好きだったこともあり、新製品がいち早く見られることを楽しみ

にしています。この仕事をしているとよくお客様に質問されることは、「この仕事、商品が多くて覚えるのが大変ではないですか?」とよく言われます。確かに、最初はゼロからスタートのため、お客様の質問に答えられないことが多々あり非常に苦労しましたが、現在は楽しみながら勉強しています。

そして、日々仕事をしていて感じることは、お客様との繋がりや感謝の気持ちです。当店にもさまざまな方がご来店いただいておりますが、いつもご利用いただいているお客様や、ありがたいことに私宛にご来店され商品をご購入いただくお客様もいらっしゃいます。

「あなたの対応が良かったのでまた来たよ」、「また次もお願いね」など、さまざまなお声かけをいただく事には、この仕事に就いているやりがいにもなりますし、感謝の気持ちでいっぱいです。

私達の業界は、さまざまな競合他社がある

中で、当社はCS(顧客満足度)を特に重視しており、常にお客様の視点に立つ「まごころサービス」を意識し、実施しています。お客様から感謝のお言葉をいただくことがありますが、その時には「まごころサービス」が実践できていると実感でき、非常に自信になります。

そしてこれからもより良いサービスの為、常にお客様への感謝の気持ちを忘れずに、皆様豊かな生活をお手伝いできるよう、愛されるお店作りを目指しております。



## ■平成30年度の主な支部活動報告

・関係機関や会員の皆様からご協力をいただき以下の活動を展開してきました。

### ■公共工事の諸課題に関する意見交換会

開催日／平成30年6月11日(月)  
会場／ホテルオークラ新潟  
内容／ゆう64号平成30年8月1日発行に内容を掲載

### ■北陸支部定時総会

開催日／平成30年6月11日(月)  
会場／ホテルオークラ新潟  
内容／ゆう64号平成30年8月1日発行に内容を掲載

### ■親子工事見学会

実施日／新潟班 平成30年7月28日(土)  
見学場所／国道7号朝日温海道路1号トンネル工事・加治川用水農業水利事業松岡ため池建設工事  
実施日／長岡班 平成30年7月26日(木)  
見学場所／国道289号(八十里越)橋梁工事・長岡除雪ステーション  
内容／建設業の社会的使命や社会資本整備の必要性を広く知っていただくために、夏休み期間中に小学校高学年の児童とその保護者の方を対象に、見学会を実施しました。  
本誌P13に掲載

### ■北陸電力への本部役員挨拶

開催日／平成30年8月2日(木)  
内容／宮本土木本部長をはじめ土木本部役員と芦田支部長により、北陸電力への挨拶を行い、久和代表取締役会長のご出席をいただき情報交換を行いました。

### ■中日本高速道路(株)金沢支社との意見交換会

開催日／平成30年9月20日(木) 会場／興和ビル 内容／ホームページに掲載

### ■東日本高速道路(株)新潟支社との意見交換会

開催日／平成30年9月25日(火) 会場／白山会館 内容／ホームページに掲載

### ■市民現場見学会

開催日／平成30年9月18日(火)  
見学場所／国道7号朝日温海道路1号トンネル工事・加治川用水農業水利事業松岡ため池建設工事  
土木学会関東支部新潟会との共催  
開催日／平成30年9月18日(火)  
見学場所／金沢港(南地区)岸壁(-7.5m)(改良)築造工事(その3)・猪谷楡原道路 片掛橋下部その2 工事  
金沢大学・金沢工業大学 学生対象  
本誌P13に掲載

### ■安全パトロール・現場点検(9月～10月)

内容／安全環境対策委員会(安全分科会)で新潟、石川の現場パトロールを行いました。  
事故防止対策委員会でも本支部合同で火薬類・交通安全・公害防止など点検を行いました。  
また支部単独でも点検を行いました。



能越道 小泉高架橋点検 梯川橋りょう現場聞き取り 松岡ため池パトロール

### ■工事視察研修会

開催日／平成30年10月23日(火)～24日(水)  
視察場所／鞆川ダム・太源太砂防堰堤・新三国トンネル

### ■建設技術報告会

開催日／平成30年10月25日(木)  
会場／石川県地場産業振興センター  
内容／本誌P12に掲載

### ■「土木の日」記念講演会

開催日／平成30年11月20日(火)  
会場／日報メディアシップ  
内容／激甚化する自然災害とその対応についての北陸地方整備局の講演と須田慎一郎氏を招いて「どうなる?今年の政治経済!」と題しての講演会を土木学会新潟会と共催で開催しました。



### ■新潟市議会政策研究会との意見交換会

開催日／平成30年11月26日(月)  
会場／新潟市役所

### ■労働災害防止安全推進大会

開催日／平成30年11月29日(木)  
会場／新潟グランドホテル  
内容／会員会社の建設現場における更なる安全意識の高揚と労働災害撲滅に向け決意を新たにしました。

### ■現場代理人等との意見交換会

開催日／平成30年12月11日(火)  
会場／白山会館  
内容／ホームページに掲載予定



### ■新潟労働局と安全環境対策委員会との意見交換会

開催日／平成30年12月13日(木)  
会場／興和ビル  
内容／ホームページに掲載予定



### ■事故防止に関する講習会

開催日／平成31年1月21日(月) 内容／建設工事の産業廃棄物等の処理についての講習会を開催しました。  
開催日／平成31年2月18日(月) 内容／地下埋設物事故防止についての講習会を開催しました。  
開催日／平成31年2月27日(水) 内容／建設工事の交通事故防止についての講習会を開催しました。  
会場／新潟県建設会館

### ■新潟県との意見交換会

開催日／平成31年2月5日(火) 会場／白山会館 内容／ホームページに掲載予定

### ■鉄道建設工事の諸課題に関する意見交換会

鉄道運輸機構鉄道建設本部大阪支社との意見交換会  
開催日／平成31年2月8日(金) 関西支部と合同 会場／鉄道運輸機構 大阪支社 会議室  
JR東日本上信越工事事務所との意見交換会  
開催日／平成31年2月14日(木) 会場／白山会館

### ■北陸地方整備局との意見交換会

開催日／平成31年3月6日(水) 開催予定  
会場／白山会館  
内容／ホームページに掲載予定

### ■支部運営会議

開催日／平成31年3月7日(木) 開催予定  
会場／興和ビル

### ■講演会

開催日／平成31年3月7日(木) 開催予定  
講師／北陸地方整備局 地方事業評価管理官  
演題／最近の北陸地方整備局の取組みについて

### ■北陸地方整備局企画部と安全環境対策委員会との情報交換会

開催日／平成31年3月13日(水) 開催予定  
会場／興和ビル  
内容／次号掲載予定

## BACK STAGE 編集後記

2019.2

65

アメリカのとあるスマホメーカーは、毎年9月頃に新製品の発表会を開きます。多くのファンがその発表会を楽しみにしており、その様子はYouTubeなどの動画共有サービスを通して日本でもリアルタイムで見ることが可能です。どの様な新しい機能が加わったのか?既存機能の性能は、どれだけ向上したのか?多くの人々が期待に胸をふくらませて、見守っています。去年は9月12日に発表会が開催されましたが、その1ヶ月以上も前から新製品の噂が飛び交っていました。そのような中、新潟市中央区万代シティーのシンボルの存在であり、多くの人々の思い出がたくさん詰まった「レインボータワー」の解体が

決定されました。8月末から始まった解体作業は、10月には客車部分の解体が行われ、11月には最後に残った塔部を解体し終わりました。1973年に開業してから45年間で延べ341万人が搭乗したそうです。地上100mあるレインボータワーから見る景色は、時代とともに変化し、新潟の発展を映していたのではないかと思います。万代シティーはこれから数年かけてリニューアルを進めて行くそうです。新潟のファンである私達は、さらに魅力を増した万代シティーとなって姿を現してくれることを期待に胸をふくらませて、見守っています。

(岩佐 一郎 記)

| 広報委員会スタッフ     |                     |  |  |
|---------------|---------------------|--|--|
| 委員長           | 細貝 隆司(五洋建設)         |  |  |
| 副委員長          | 岡崎 豊彦(熊谷組)          |  |  |
| 委員            |                     |  |  |
| 昆野 徹也(安藤・間)   | 石附 裕(植木組)           |  |  |
| 福田 克彦(大林組)    | 濱 一男(大本組)           |  |  |
| 垣内 俊彦(鹿島建設)   | 信清 孝樹(五洋建設)         |  |  |
| 小川 晃市(清水建設)   | 小林 恵一(銭高組)          |  |  |
| 迎田 秀樹(第一建設工業) | 岩佐 一郎(大成建設)         |  |  |
| 窪田 利晴(東亜建設工業) | 津川 圭一(フジタ)          |  |  |
| 森田 浩二(前田建設工業) | 工藤 悟(若築建設)          |  |  |
| 事務局長          | 本間千代吉(日本建設業連合会北陸支部) |  |  |